



車輪梅

<鹿島中学校 学校だより>

【平成30年12月号②】

スリッパ事故には十分ご注意ください！

《重点目標》『品格を高め、目標に向かってねばり強く取り組もう』

12月になり、全校生にとっての3者面談が始まりました。早いもので、後1ヶ月足らずで2学期も終わります。3年生は、いよいよ自分の進路決定に向けて、本格的に取り組まなければなりません。その取り組みの一つとして、3年生の面接練習を始めます。このわずかな時間の中でも、前向きに取り組もうとしているか一目でわかります。緊張する中、ご家庭でも一声おかけいただけると幸いに存じます。

【新たな避難訓練の実施】

11月28日の避難訓練では、①全ての非常扉を閉めた状態で、南相馬消防署鹿島分署の方のご協力を得ながら②発煙機を使って白煙を出し、見えづらい中を通行する訓練を取り入れ（2・3年生徒）、避難後に整列した後は、③校舎に備わっている「救助袋」の使用方法についても、担当の先生の話聞きながら全校生で確認しました。

実際の避難では、閉まっている防火扉の真ん中にある小さな「防火戸」を通り、上写真のように白煙でほとんど前が見えない中を、口と鼻を押さえて煙を吸わないようにし、また、「防火戸」で転ぶことのないように安全面にも十分に注意しながら避難しました。

消防署員のお話では、今日は白煙体験のため、煙の中を通りましたが、実際の火災では、①煙から遠ざかるように逃げるのが基本であること。②実際に煙の中を逃げなければならないような場面に遭遇した際には、煙は熱いので上に上がる場合が多いので、できるだけ頭を低くし、低い姿勢を保ちながら避難することが有効であることを教えていただきました。

また、最近の火災では、家の中に設置することが義務化されている「火災報知機」がないために、命を落としていると思われるケースが見受けられること。今日、家に帰ったら、寝る部屋に火災報知器があることを確認し、設置されていたとしても電池がないと働かないので、電池があることも確認するようにお話をいただきました。

（火災の時には、眠っている間に煙を吸ってしまい、体が動かなくなってしまうケースが多いので、火災報知器は、特に寝室に設置するといひそうです。）



本校の、北校舎と南校舎の3階に1台ずつ設置されていること。一番最初に救助袋を出すためにふたを開ける際には、ふたが重くて指などを挟んでしまう危険性があるため2人で協力して開けた方がいいこと。救助袋内はらせん状になっているためスピードが出にくい構造なので、安心して足から先に降りるような体制を作ることを学びました。

救助袋の脇には、古くなってしまいましたが、救助袋の使用 방법이書いてある紙が貼ってあります。

地震や火災はいつ起きるかわかりません。自分の命や他人の命を守るために、常日頃から防災に備えた意識を高く持ちたいと感じた避難訓練でした。

【漢字検定への挑戦】

級	第1回・第2回合格	挑戦者
2級	3名	7名
準2級	5名	16名
3級	10名	33名
4級	7名	13名
5級	7名	10名
6級	1名	1名
合計	33名	0名



※2級の合格、本校3年生の3名が達成いたしました。準2級も素晴らしいですが、更にもその上を目指し達成いたしました。

（木幡圭裕、高橋優菜、富田吹音）

<2級とは> 高校卒業・大学・一般程度 (2136字)

※常用漢字がすべて読み書き活用できるレベル

※準2級の合格者は、以下5名の生徒たちです。
（沼内悠希、但野若菜、小原京花、佐藤健吾、加藤志歩）

<準2級とは> 高校在学程度 (1940字)

●準1級や1級は、学校では受験できず、仙台や福島市等の公開会場で受験となります。

<準1級とは> 大学・一般程度 (約3000字)

【人権作文県大会入賞】

「第38回全国中学生人権作文コンテスト」福島県大会が実施され、本校では3名の生徒たちが県連奨励賞をいただきました。4日に相馬法務局長さんや、人権擁護委員の大谷さんや遠藤さんが、校長室にて3名と支部奨励賞も併せて賞状を授与されました。県連奨励賞の受賞者並びに作品名は以下のとおりです。

高田光太郎「残された生命（いのち）」

大沼 未知「夢を叶えるために」

増田 紗英「障害者を知ること」

支部奨励賞受賞のお名前を掲載します。

堀内優、小倉芳香、藍原さやか、佐藤夕華、高橋励奈、加藤志歩、只野鈴、高橋結子

今後も、生活の中で皆さんが”人権”について考える契機としてほしいです。